

特集

不妊・不育症女性の合併症・併存疾患をどう扱う？

企画者のことば

桑原慶充*

挙児希望年齢の高年化やライフスタイルの変化に伴い、妊娠・出産を希望して医療機関を受診する女性に、婦人科疾患の合併やその他内科疾患などの併存を認めることが多くなっています。疾患自体が不妊・不育症の原因となっている場合や、妊娠成立には影響しなくても、その後の周産期にリスクが及ぶ場合もあり、生殖医療を進めるにあたっては慎重な対応が求められます。悪性腫瘍を合併する場合には、妊孕性温存に配慮した取り扱いが求められますが、生殖医療による原疾患治療の遅延や病勢増悪のリスクとも背中合わせになります。

挙児希望女性に対してファーストタッチを行う生殖医療に携わる医師は、ある意味においてプライマリ・ケア医であり、合併症・併存症に

際しては総合的、継続的、全人的な対応が望まれます。一方で、多様な合併症すべてに対して高い専門性をもつことは困難であり、適切な対応がなされないまま生殖医療が行われ、病状がコントロールされないまま妊娠に至り、産科医師へ引き継がれるといった状況もみられます。

そこで本特集では、リプロダクティブエイジの女性に比較的多くみられる合併症・併存疾患を横断的に取り上げ、生殖医療(不妊症治療・不育症治療)を進めるうえで知っておくべき対応と留意点について、エキスパートの先生方に執筆いただきました。挙児希望の女性だけでなく、リプロダクティブエイジの女性を診療するにあたり、広くお役立ていただければ幸甚です。

*Yoshimitsu Kuwabara 日本医科大学付属病院女性診療科・産科(准教授)